

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年1月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101920
法人名	医療法人 聖心会
事業所名	認知症対応型共同生活介護 まごころ照国
所在地	鹿児島県鹿児島市照国町7番17号 (電話) 099-813-7260
自己評価作成日	令和4年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の状態であっても、家庭的な雰囲気の中で共同生活を通して、個々の思想やライフスタイルを尊重しながら自立支援に向けた介護を心がけ、利用者様の得意分野を活かしながら楽しい生活を過ごしていただける様に職員一同努めています。
また、母体医療機関とも連携しており、身体状態など医療に対しても安心して過ごしていただいています。
場所は城山を背景に、住宅街に囲まれ賑やかな場所になっております。
天気の良い日には屋上から鹿児島市街地や桜島を眺望でき、地域に根差した明るく開放的な施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は複合型施設に属し、同建物グラウンドの庭に自由に入出りができ、安全も確保されている。
- ・母体法人は医療機関で月2回の訪問診療と併設の訪問看護ステーションから週1回の健康チェックで健康管理し、医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・町内会に加入し施設内の地域交流センターを地域に解放している。散歩時の挨拶交流や近隣の小学生からカードの贈り物が届き、利用者の喜びに繋がっている。
- ・施設全体の給食会議が月1回委託業者と意見交換・情報共有し、利用者の好み等、アンケート調査に基づき、事業所でそれぞれの食形態で美味しく食べれるよう提供している。
- ・代表者や管理者は職員の意見や提案・疑問・悩み等の相談に応じて働きやすい環境作りに努めている。
- ・職員は利用者が歩んでこられた人生を受け入れ、個々に応じた声かけを心がけ、自主性を尊重した支援をしている。
- ・職員の資格取得に向けて休暇の調整等を行い、サポート体制が有り、合格祝い金等がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に実践している。全体会議（ケア会議）の場では施設全体の介護理念を提唱し、職員事務所（スタッフルーム）には事業所理念を掲示している。	法人理念と事業所理念をスタッフルームに掲示し、利用者それぞれの思いやライフスタイルを尊重した支援に努めている。月1回全体会議やケア会議で理念を唱和し理念に基づくケア実践について振り返り次に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルス感染の影響にて地域の幼稚園、中学校との交流は自粛している。以前は、季節の行事等で交流を図っていたが、今後感染状況を踏まえて地域の方々と再会に向けて検討を行なっていく。	町内会に加入し施設内の地域交流センターを開放している。クリスマスには近隣小学校の子供達から利用者へのメッセージカードが届き喜ばれている。天気の良い日は施設周辺の散歩時に近隣住民と挨拶交流し地域との繋がりに努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	現在新型コロナウイルス感染の影響にて、地域の方々と交流が難しい状況である。今後の感染状況を踏まえて、地域の方々と交流する機会の検討を行なっていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>新型コロナウイルスの感染対策にて運営推進会議の開催は中止している。民生委員や自治会長、知見者へ事業所内部や施設内での行事の様子等を郵送にて資料配布させていただいている。</p>	<p>定期的に入居者状況や事業所の活動状況をまとめ、運営推進会議資料として委員へ送付報告し共有を図っている。自治会長から電話で地域の情報を得ている。意見はサービス向上に活かせるようにしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染対策から運営推進会議は中止しているが、地域包括支援センター職員へ資料を郵送にて配布し、現状報告を行っている。また、必要時は担当者へ電話連絡を行い相談、助言を頂くよう努めている。</p>	<p>市担当者とは直接出かけ書類提出や相談、電話で相談し確認事項や助言を頂き、協力関係を築いている。市主催の研修には会場に出向いての研修参加やリモートで参加し情報を得ている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>安全対策委員会を中心に身体拘束を行わないケアの取り組みを実施している。委員会による身体拘束についての研修を行い、知識や理解を深めるとともに、言葉の使い方にも注意して取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を含む安全対策委員会を中心に身体拘束についての研修を行いケア実践をしている。毎月の勉強会でもスピーチロック、虐待、抑制体験を通して心理的影響について学んでいる。日中の玄関施錠はしていない。部屋から庭への出入りは自由であるが、外出希望がある場合は職員と一緒に屋上で景色を眺めたり、施設の外周を散歩支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を中心に高齢者虐待防止法の研修を実施し、虐待防止への理解を深めている。職員への面談等を通じ、悩みやストレス軽減できる様に取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見人制度について内部研修を行い、職員への理解、周知に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始前にご自宅へ訪問を行い、利用契約書や重要事項説明書の十分な説明を行なっている。利用開始前に不安や疑問をお聞きしご理解をいただくと共にご本人様にも利用前にお越しいただき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様からは日頃のケアや会話の中から意見や要望を聞いており、ご家族には、電話での連絡や面会の際に意見を聞く対応を行なっている。面会制限時でもこまめに連絡をとり、意見を聞く機会が設けられている。	利用者からは日々の生活の中で意見や要望を聞いている。家族からは電話や希望に応じてタブレットやガラス越し面会時に状況報告し意見や要望を聞く機会を設けている。家族の気持ちに寄り添った対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議以外にも、業務にて出た意見は申し送りノート等にて職員間で情報共有を行いケアに反映している。また意見を言いやすい環境作りにも努めている。</p>	<p>月1回の職員会議や日々の申し送りや業務中でも意見や提案を聞いている。管理者は意見が言いやすい雰囲気作りを心がけ、必要時は個人面談することもある。業務ノートや利用者の申し送りノート、ケース記録で情報共有し報告・連絡・相談の徹底に繋げている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人の上層部、管理者同士での会議の場にて就業環境の整備及び各自の就業状況の把握等の情報共有、検討を行い働きやすい職場環境、条件の整備等に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新規採用時のオリエンテーション、新人職員への業務レポートや指導担当職員への聴き取り等を行なっている。また内部研修でもそれぞれによる研修を実施して、個々のスキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防の為、電話連絡のみ行い情報共有を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様、ご家族や関わりのある方々から情報収集を行い、本人様に合った入居方法を考えている。ご家族とも連携を取り安心して過ごしていただけるよう信頼関係の構築に努めている。また、本人様の要望を必ず聞き取りを行いプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には訪問を行い、家族の困り事をお聞きしている。入居後も家族とこまめに連絡を取り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の状況を把握し、事前に来ていただくなどの必要な支援を行なっている。他サービス事業所とも連携を図り入居が決まった時など行き来をして情報をもらうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をさせていただくという姿勢を大切にし、時には職員が利用者様に頼ったり、何かする時は相談するなどしている。喜怒哀楽が出せるようお互いが家族のような関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からこまめに連絡を取ったり、面会時などには少しお話をさせていただいたりとコミュニケーションが多く取れるような働きかけを行なっている。近況報告や今後のケアの方向性を相談したりと、本人様の今後の生活を共に考えていけるように関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策の為現在対面の面会は中止している。感染状況を見ながら再開予定である。ガラス越しでの面会、電話での会話、テレビ電話等での対応を行なっている。	抗原検査を実施し家族の意向で施設内の地域交流センターでタブレットを用いてのテレビ電話、ガラス越し面会、電話や手紙・ハガキ等の取次で家族と交流出来る様に支援している。整容は馴染みの訪問理美容師を毎月依頼し、個別でドライブ支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流が持てる様に橋渡しを行なっている。気の合う人同士で同じ作業を行なっていたり、一緒に散歩に行ったりと利用者様同士で関わりが多く持てる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院後も家族と連絡を取り本人様、ご家族の様子を確認している。退所された後も相談、連絡が気軽に出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、本人様との会話の中、困難な場合にはご家族から直接お聞きし希望や意向の把握に努めている。また、ケアの中での仕草や表情、反応を情報共有し希望や意向に沿うケアを行うように努めている。	居室でゆっくりしている時や入浴・夜間帯・就寝介助時に思いや意向を話されることが多い。困難な場合は仕草や表情の変化・反応等から気づきノートにも記録して職員間で意見交換し共有して、希望や意向に沿うケア実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人様、ご家族から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。これまでの暮らしは生活していく上で重要であり、新たに得た情報は随時追加、更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を電子記録、業務日誌、申し送りノートに記入を行い、職員は出勤時に確認、申し送りを受け状態把握に努めている。バイタル測定も毎日実施し体調管理にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族、他職種の職員の意見を踏まえて介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを行い、必要時にはカンファレンスを開き現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望、主治医や訪問看護師、職員の意見を踏まえて、担当者会議で意見交換し介護計画を作成している。1ヶ月毎の職員意見や相談を記録し6ヶ月毎のモニタリングと見直しをしている。状況変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に日々の様子や変化などを必ずケース記録に記録し、申し送りノートなどで共有している。本人様の発言や想いも記載し今後の介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に協力をいただき食べたい物や欲しい衣類、雑貨等その時々生まれるニーズに対応できる様に努めている。また新型コロナウイルスの感染状況に応じて外出等検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策の為、人混みの多い場所への外出は避けているが以前から使用している病院への受診等ご家族に協力をいただき支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体であるかごしま高岡病院による訪問診療が月2回行われている。以前から通われている歯科等の専門医療機関とも協力して適切な医療が受けられる様に努めている。	入居契約時、かかりつけ医について希望を聞き、入居前からのかかりつけ医継続支援や母体医療機関から月2回の訪問診療と週1回施設併設の訪問看護で健康管理している。必要時歯科医の往診もある。他科受診は基本は家族同伴であるが職員が同伴する等、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設事業所に看護小規模多機能型居宅介護があり、健康相談や体調不良時においても看護師にいつでも報告、相談が出来ている。また週1回、併設看護師が利用者様の健康チェックを行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には情報提供を行い本人様、ご家族様が安心して治療できる様に主治医や担当看護師とも話し合いを行なっている。出来るだけ早期に退院出来るように努め、ご家族様と一緒に対応や注意事項等の説明を聞き取り関係作りを行なっている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化、終末期に向けた看取りの指針をご家族に説明し同意を得ている。状況に応じてご家族、主治医、看護師を含めて話し合いを行っており、納得のいく終末期が過ごせるように努めている。	入所時にマニュアルに基づき説明し同意書を貰っている。重度化した場合もその都度家族に説明、意向を確認し主治医・看護師と連携しながら納得のいく終末期が過ごせるよう支援し、看取り実績もあるが、家族の意向で医療機関へ緊急搬送することもある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時の対応を内部研修として取り入れており、緊急時の連絡体制も整備されている。毎年の研修にて緊急時への対応、実践力を身につけていくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年3回の災害訓練を実施しており、消防局立ち会いによる訓練も年1回行なっている。様々な災害や想定をもとに取り組んでいる。コロナ禍が落ち着いてくれば地域住民の方々にも参加をお願いし、協力して実施していくように努めていく。</p>	<p>災害訓練は年3回行い、1回は消防署立会の夜間想定で初期消火・通報・経路確認、避難誘導・避難訓練を実施し総合的に助言を貰っている。自主訓練を地震や土砂災害想定で合同訓練の協力体制で実施している。防災機器は年1回業者依頼し定期点検を実施している。備蓄は水・乾パン・缶詰・インスタント食品・レトルト食品など3日分とヘルメット・カセットコンロも準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人が歩まれてきた人生を尊重しプライバシーに配慮しながら声掛けや接し方を行なっている。</p> <p>職員同士が良い意味でお互いを注意し合える環境作りをに努めている。</p>	<p>人権擁護・接遇マナーについて年4～5回研修や勉強会を実施している。日々の関わりでも、時間や場所を考慮し支援している。排泄や入浴時は羞恥心に配慮し声掛けの工夫や利用者の意向を聞き対応している。自己決定できる選択肢を設けている</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>衣類や飲み物等些細な事柄でも選択肢を設け、本人が自己決定しやすい環境を整えるよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や休憩したい時間等それぞれが思ったり、望む時間で行えるように工夫や対応したりと状況に応じて臨機応変に対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>着たい洋服など好みで選んでいただいたり、好きな髪型やネイルをしていただいたり本人がしたい身だしなみができるように心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託している業者から提供される食事を利用者様と一緒に準備を行なっている。それぞれに合った食事形態に変更したり、食べたい物をお聞きしご家族に協力を頂き召し上がっていただいている。また月1回施設全体の給食会議を実施し意見や情報の共有を行なっている。	月1回、委託業者と施設全体の給食会議で利用者の好みを情報共有し、アンケートを基にホームで盛つけ、それぞれの食形態に準備して提供している。行事食・誕生日はレクリエーションやロールケーキでお祝いし敬老の日は紅白餅で楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量や水分摂取量を記録に残し把握に努めている。 ご利用者様に応じて食べやすい皿に変更したり、自助具等を使用してその人に合った食事環境になるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、ご自分でされる利用者様にも仕上げ磨きを行い、口腔内の状況確認をし清潔に保てるように努めている。義歯は夕食後洗浄液等にて洗浄、消毒を行なっている。また必要に応じて歯科往診やご家族に協力を頂き歯科受診を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時は毎回時間等記録し、1人1人の排泄リズムの把握に努めている。自立されているご利用者様への声掛けや必ず便座に座っての排泄になるように支援を行なっている。おむつ使用時でも訴えがある際はトイレにて排泄していただけるように努めている。	排泄チェック表や個々のサインを把握し、声かけやトイレ誘導し排泄支援している。排泄用品はリハビリパンツや尿取りパット・ショーツ・オムツなど、個別に応じて使用している。オムツ使用の場合も意向を確認しトイレ誘導することで便座に座れる等、少しずつ良い方向へ変化している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や医師と相談しながら便秘への改善に努めている。飲食物の工夫や排泄時の腹部マッサージを行うなど看護師と連携し排便があるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本午前中に行なっている。本人様の要望やその時の体調や状態に応じて日程や時間を変更するなど臨機応変に対応している。また環境や羞恥心にも配慮した支援を行なっている。	週2回の午前中に浴槽またはシャワー浴にて入浴支援をしている。利用者に応じて湯温や順番を調整し、希望で同性介助の支援をしている。入浴を嫌がる場合は体調をチェックし看護師に報告したり、声掛けの工夫・無理強いをせず日程変更し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者様それぞれ違う為、その人に合わせた就寝時間にて休んでいただいている。日中でも本人様の意向により休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に内服を管理し、効能や用途、副作用の把握に努めている。薬も一つ一つチェックを行い服用時も飲み忘れや飲み残しが無いように確認を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までされていたことを出来るだけ継続していただけるよう役割を持っていただいたり家事や歌等得意なことを継続して出来る様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で外出機会は激減している。今年度も施設周囲の散歩や近隣の散歩を行いながらリスクの少ない外出支援を行なっている。	天気の良い日は近隣や施設周囲の散歩で季節の花をながめている。他科医療機関への受診時に景色を楽しんだり2~3名の小人数でのドライブ支援をしている。ホーム内の行事を工夫し利用者が満面の笑顔で楽しめるように工夫し支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所では預り金は実施しておらず、必要に応じてご家族に説明を行い頂いている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響にて職員との買い物は実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員が代行して電話をかけお話をされたり、家族や知人からの電話の取次も自由に出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて飾り物（利用者様、職員制作品含む）や花を用意し季節感を味わってもらえる様に努めている。トイレや各居室にわかりやすい様に表示をしている。現在温度、湿度に気をつけ適温、適湿度に努めている。	ホールには高性能空気清浄機を設置し感染対策のマニュアルに基づき清潔な環境を心がけ、換気を行い採光もカーテンで調整している。温湿度計で確認しエアコンで調整しながら快適な環境作りをしている。壁には季節に応じて創作した貼り絵やちぎり絵を飾り、テーブル・椅子・ソファを置き居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気の良い日は外や屋上にて日光浴をされたりソファにてゆっくり過ごされている。座席も一定の距離を保ちながらになるが、仲の良い人同士は一緒に活動出来るように工夫、対応を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた家具等をそのまま使って頂いたり、馴染みの物や思い出の品を飾って頂いたりと今までの生活、暮らしが継続できる居室環境になる様に工夫している。	居室は電動ベット・クローゼット・タンス・椅子・エアコンを設置している。寝具類やタンス・鏡台・仏壇・位牌・人形・家族写真・小説など、自分の好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の力量に応じて使いやすく、安全に生活できるように家具の配置など配慮している。自分の持ち物など手の届く場所に置き少しでも自立した生活が送られるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない